

氏名	原田 洸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6140 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical relevance of low androgen to gastroesophageal reflux symptoms (低アンドロゲンと逆流性食道炎症状の臨床的な関連)
論文審査委員	教授 岡田裕之 教授 光延文裕 教授 渡邊豊彦

学位論文内容の要旨

加齢男性性腺機能低下 (LOH) 症候群は「男性更年期障害」とも呼ばれ、加齢に伴う血中男性ホルモンの低下に基づく症候群である。LOH の診断は血清遊離テストステロン値 (FT) をもとに行われるが、日常の臨床では FT を測定すべき症候の判断に苦慮する。本研究では当院で FT が測定された患者の FT 値と受診時の症状や質問紙表、検査データとの関連性を後方視的に調査した。FT を測定された 205 例 (55.2±15.6 歳) の解析対象のうち、119 例 (58.0%) が FT<8.5 pg/ml と LOH 基準を満たした。脂質・糖質・炎症・骨代謝マーカーおよび Self-rating for Depression Scale・Aging Males' Symptoms スコアの点数は FT 値と相関を認めなかったが、Frequency Scale for the System of Gastroesophageal reflux disease のスコアと FT 値は負の相関を示した (R=-0.3395, P<0.001)。倦怠感・体重減少などの内科的全身症状の主訴に、LOH 症候群が多く潜在することが示され、テストステロン欠乏が広く全身的に影響を与える可能性、肥満やストレスが LOH と逆流性食道炎 (GERD) の両者に関連する可能性、テストステロンの抗炎症作用が食道の損傷治癒に関連する可能性が示唆された。GERD 症状は LOH 症候群の診断の一助となる可能性がある。

論文審査結果の要旨

血清遊離テストステロン値 (FT) <8.5pg/ml は加齢男性性腺機能低下 (LOH) 症候群と診断されるが、FT 測定の対象はあきらかではない。本研究は FT を測定した患者群の FT 値と患者データとの関連性を検討した観察研究である。自己評価式抑うつ性尺度 (SDS) や男性更年期障害チェックリスト (AMS) と FT との相関は認められなかったが、GERD 評価のスコアである FSSG のスコアと FT は逆相関を認めた。また、LOH の患者では FSSG スコアが高かった。その結果から GERD 症状は LOH 症候群診断の一助となる可能性が示された。FT 低下によって GERD が引き起こされる機序については明確ではなく、また、アンドロゲン補充の GERD 症状改善効果、LOH 症候群と関与する GERD の病態 (逆流性食道炎、非びらん性逆流症 (NERD)) 等、解明すべき課題が残されているが、GERD のうち、特に NERD の病態はあきらかではない部分も多く、難治例も存在する。その病態解明および治療法の選択にもつながる価値ある研究である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。